

令和6年12月12日 00721号

北見武道通信

編集者:佐藤寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp



ニュースレター

【事務局情報】里帰り?!

熱心に北見市武道館で柔道を指導するのは近ごろ東京から北見に一時帰省している安藤健人さん(36歳) 講道館柔道参段です。安藤さんは小・中学生時代には北見練心会で柔道を習っていた北見練心会のOBです。高校は東海大学第四高等学校

(東海大学付属札幌高等学校)の柔道部で、社会人になっても東京で柔道は続けていました。一時の休息にと北見に里帰りしていましたが、北見の子供たちと一所に柔道をしていたら北見を離れ難くなったのかもしれません。子供たちも安藤先生が指導に来てくれるのを楽しみにしているようです。「これからも後輩の指導を宜しく」と練心会一同も願っています。北見練心会の稽古納めは12月20日(金)、来年の稽古始めは1月8日(水)となっていますので、これからも北見に残って仕事と柔道でご活躍されることを期待しています。(佐藤)

事務所の花シリーズ「スカピオサ」

「スカピオサ」が寒い中始めて咲きました。(渋谷)



連載 中国「老子」の思想 六十三章 聖人は大をなさず

無為を守って「道」にのっとり、感性による判断を捨てて「道」を認識する。小と大、少と多、それぞれの対立と転化の法則を理解し、怨みといった小さな感情は、広い徳で包容する。難事は、もつれぬ先に処理し、大事は、小事のうちに収拾する。いかなる難事であろうとも、その発端はつねに単純な問題にすぎず、いかなる大事であろうとも、その発端はつねに些細な事件にすぎないからだ。聖人は、終生、大事に直面することがない。だからこそ、大事を成し遂げることができるのだ。安請合いは不信を招き、軽視は困難のもとである。聖人は、たやすく見える物事さえ、困難視して対処する。だからこそ、終生、困難に見舞われることがないのである。(無為を守って・・・のっとり) 原文は「無為をなし、無事を事とす」。

「無為」も「無事」も、同義を反復するもの。原文: 爲無爲、事無事、味無味。大小多少、報怨以德。圖難於其易、爲大於其細。天下難事必作於易、天下大事必作於細。是以聖人終不爲大。故能成其大。夫輕諾必寡信、多易必多難。是以聖人猶難之。故終無難。 六十四章に続く